



# 中世博多 歴史放談

博多遺跡群出土品重要文化財指定  
発掘調査40周年記念



福岡市埋蔵文化財センター

博多遺跡群発掘開始40周年記念  
博多遺跡群出土品重要文化財指定記念

# 『中世博多歴史放談』

期日 平成29年5月13日(土)

会場 福岡市博物館講堂

## 日程

12:30 開場  
13:15 開会  
挨拶 経済観光文化局文化財部長 高山 嘉樹

### 第一部

13:20 重要文化財指定の経緯と評価  
横須賀 倫達 (文化庁)  
13:40 指定遺物の紹介 田上 勇一郎 (福岡市)  
14:30～ (休憩)

### 第二部

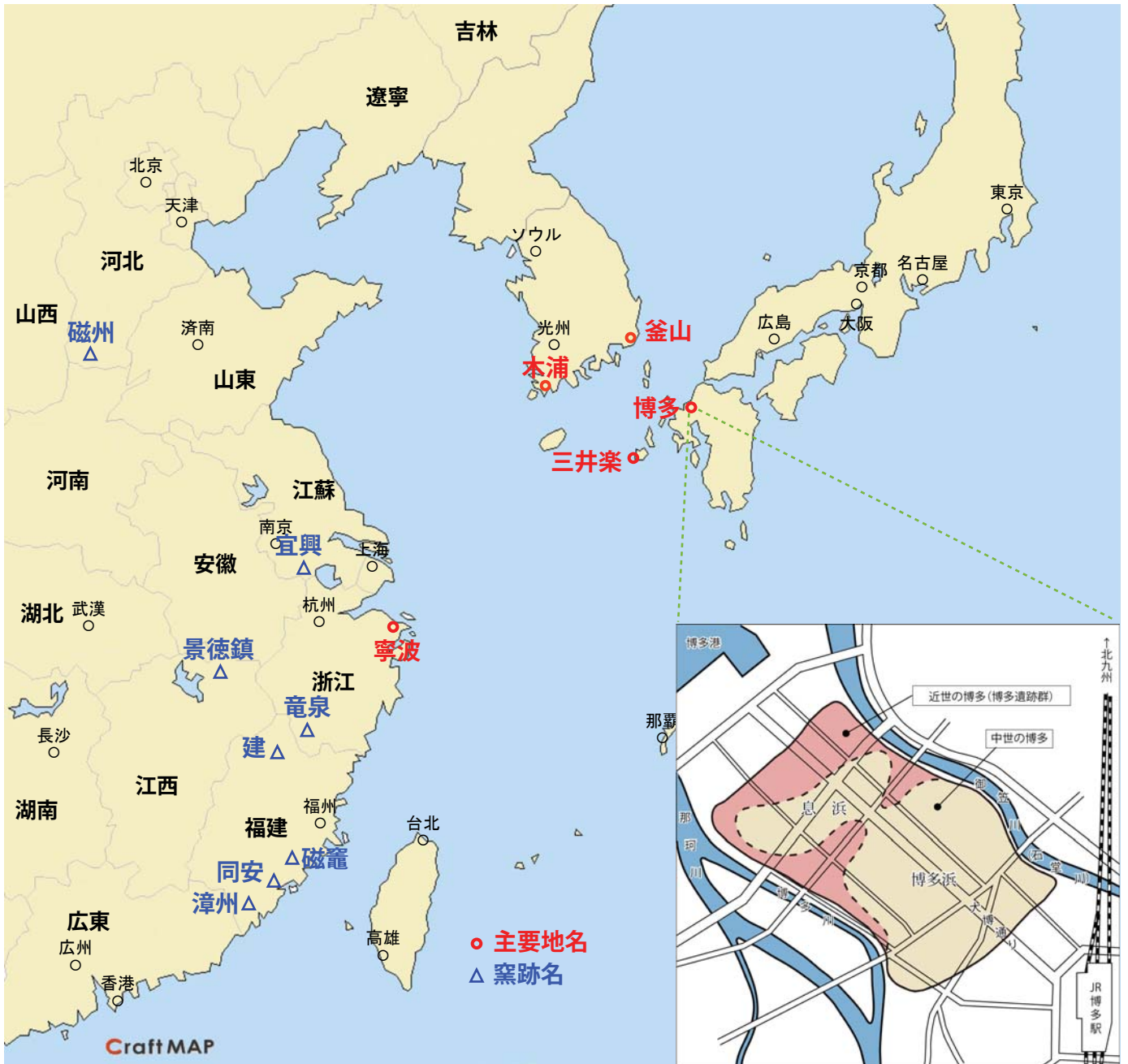
14:45～ 放談会  
司会 佐伯 弘次 (九州大学大学院教授/文献史学)  
小野 正敏 (国立歴史民俗博物館名誉教授/考古学)  
伊藤 幸司 (九州大学比較社会文化研究院准教授/文献史学)  
田上 勇一郎 (福岡市埋蔵文化財課/考古学)  
横須賀 倫達 (文化庁美術学芸課/考古学)

話題 1. 重要文化財指定について  
2. 博多と国際貿易  
3. 博多の景観と住民  
4. 博多から全国へ 先端技術の上陸地

16:45 閉会

主催 福岡市経済観光文化局  
文化財部 埋蔵文化財センター

# 中世博多 関係地図



# 地図で見る 博多遺跡群



陶磁器や金属容器の埋納  
(16世紀後半／第124次調査)



石塁遺構の検出  
(第111次調査)



埋納された陶磁器  
(16世紀末／第40次調査)



護岸と見られる遺構  
(16世紀後半／第89次調査)



木箱に入った陶磁器  
(11世紀後半～12世紀前半／第56次調査)



火災に遭い廃棄された陶磁器  
(12世紀前半／第79次調査)



陶器に入った差銭  
(13～14世紀／第45次調査)



聖福寺中町の築地塀  
(14世紀／第76次調査)



中世博多のメインストリート(道路側溝)  
(第35次調査)



井戸に廃棄された青磁  
(12世紀中頃～後半／地下鉄祇園町工区)



大量の火葬人骨(頭や頸の部分)  
(14世紀前半／地下鉄祇園町工区)

遺跡の範囲

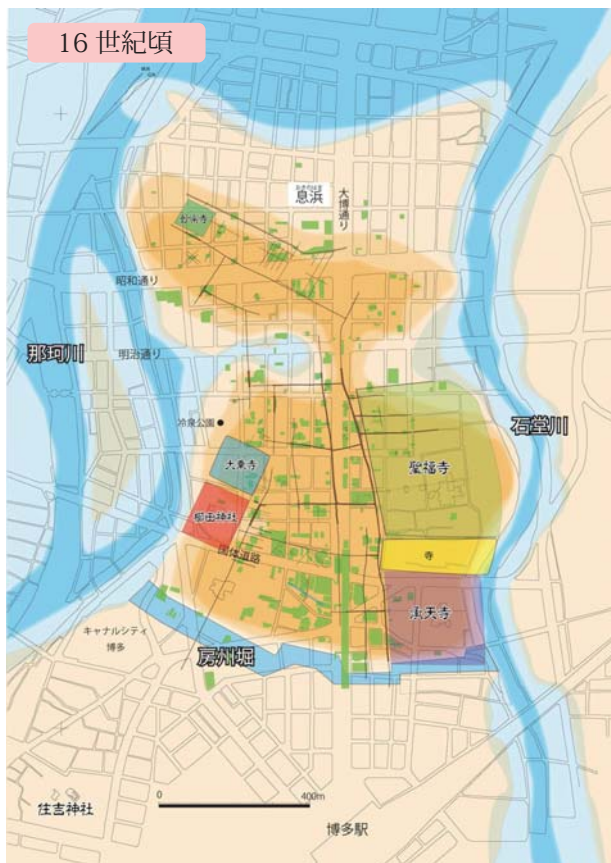
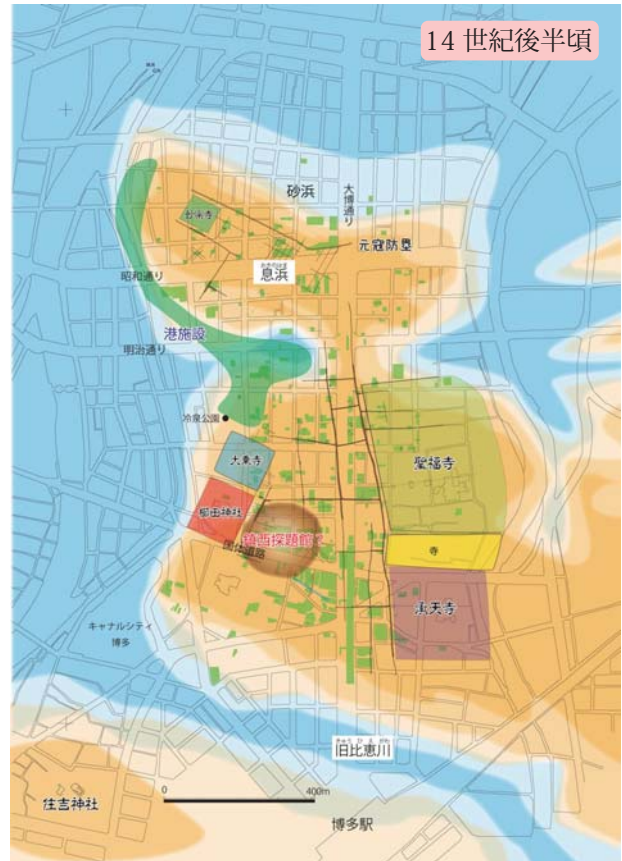


発掘調査区



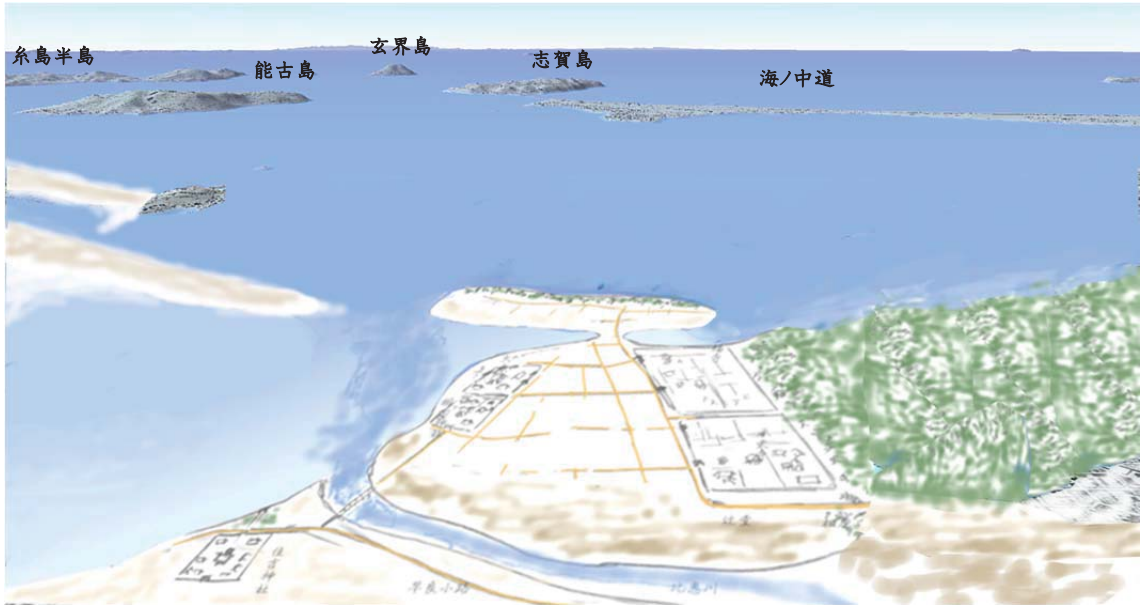
数字は調査回数  
アルファベットは地下鉄調査の調査区  
Rの付いた調査区は築港線関係調査

# 博多 地形と町の変遷



※本田浩二郎氏作成の図を一部改変

# 中世博多の景観



前に入海遙かにして、志賀の島  
を見渡して、沖には大船多くか  
かれり。唐人もや乗けんと見ゆ。  
左には夫となき山ども重なり、  
右は箱崎の松原遠く連なり、仏  
閣僧坊数も知らず、人民の上下  
門を並べ、軒を争ひて、その境  
四方に広し

飯尾宗祇

筑紫道記

(二四八〇年)

森々たる石城は水雲に聳え

一区の烟火は乾坤を一にす

列岳は高く低く小野に臨み

平波は浩く渺かに孤村を抱く

朴加大は城なく岐路は皆虚なり

宋希環 老松堂日本行録

(二四二〇年)

博多有り。居民万餘戸。小二殿と

大友殿分治す。小二是西南四千餘

戸、大友は東北六千餘戸なり。居

人行商を業とす。琉球・南蛮の商

船所集の地なり

申叔舟

海東諸国紀

(二四七一年)

# 宋人たちの 足跡



博多遺跡群からは、中国人名や、ジャンク船の船頭であることを示す「綱」、中国風の花押を墨書きした陶磁器が多数出土しています。博多に暮らした中国人商人を示す直接的な証拠だと言えます。



手のひらサイズの人形

宋人たちは、日常使いの小物や器に中国陶磁器の精品を取り入れ、身の回りを中国風に装っていました。



青白磁灯火器



青白磁香炉



天目茶碗



宋で焼かれた屋根瓦  
同じ型から作られた瓦が中国と博多で出土しています。

# 国際貿易都市 博多

鴻臚館衰退後、対外交易の窓口となった博多は、宋、元、明といった中国歴代の王朝をはじめ、朝鮮、東南アジアとの貿易によって、陶磁器を中心とする多くの文物が持ち込まれました。

青磁



白磁

中国産陶磁器  
青花・色絵





# 国際貿易都市 博多

中国陶磁器の量には及ばないものの、朝鮮半島産の陶磁器も多く出土しています。室町時代、博多・箱崎の商人らは、朝鮮王朝との貿易に積極的に参加していました。朝鮮王朝陶磁器には、茶器として珍重されたものも多く見られます。



朝鮮陶磁器  
高麗・朝鮮王朝



焼締大壺 (ベトナム北部)



白釉鉄絵陶磁器 (スコタイ=タイ)

14世紀後半以降になると、東南アジアの陶磁器も見られるようになります。早い時期にはベトナム陶磁器が多く、他にタイやミャンマーなどの製品も出土します。

## 東南アジア産陶器



ハンネラ土器 (タイ)



褐釉双耳壺 (シーサッチャラナイ=タイ)



## 国産土器・陶器

地元で生産された日常容器である土器のほか、瀬戸・備前・播磨など国内各地からも様々な陶器が運ばれてきました。

# 中世博多の暮らし

博多に暮らした人々の生活の様子を  
出土品から見てみましょう。



将棋の駒



賽子 (さいころ)

## 遊ぶ



基石



竹トンボ

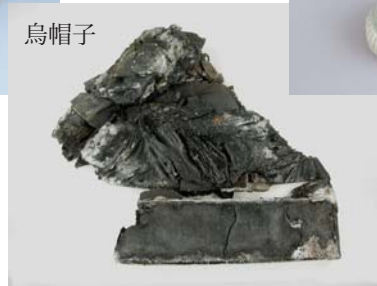


下駄



合子

## 装う



烏帽子



青銅の仏像

## 祈る



墓石 (五輪塔)

## 吊 (とむら) う



小仏像の頭部



土壙墓



瓦経



木棺墓

# 日常の銭遣いと物価



一文銭(宋銭)



銭鉢と緡銭



分 銅

左=金額(単位は文)  
中=品名  
右=価格が記された史料の年代(西暦)

## 中世物価表

	陶磁器	金属・木製品	農水産品・他
(文)			
1	0.5・油坏・1422年 かわらけ かわらけ(基準1文) 3・ほうろく・1569 染付皿・1548 15・土鍋・1246* 白磁菊皿・1548 30・播鉢・1430 35・酢皿・1576	4・金剛1足・1480 12・金剛1足・1477 20・鎌・1568 25・鎌・1560 25・上金剛・1422 30・たらい・1439	0.08・梅干し・1489 0.2・梅干し・1491 0.5・鯛(1コン)・1492 0.7・茄子・1491 1.2・牛蒡(1把)・1489 1.6・大根(1把)・1491 2.3・蓮葉(1把)・1489 6・小たい・1492 14・海老(1コン)・1492 25・ハマチ・1491 25・うさぎ・1401* 36・鯉・1492
50	50・四方火鉢・1488	50・金輪・* 54・丹波筵・1492 60・菜鍋・1568 70・金輪・* 75・潤鍋・1575 85・金輪・1468 85・鍬・1567	50・薬缶鑄掛け・1590 60・桶作り日当・1574 85・いも(1斗)・1491
100	100・火鉢・1453 100・火鉢・1462 110・火鉢・1446	100・草履・1550 100・鉄鍋・* 120・三升鍋・1572 130・硯箱・1469 130・金輪・1439 150・鍋・1439 150・鋤・1564 150・轡・1477 180・つき白・1480	100・大工日当・1490 110・大工日当・1470
250	350・大甕・1372*	250・小釜・1487	350・小釜鑄掛け・1590
600			618・年地子3×9間・1558*
1300		1100・美濃紬(1反)・1492 1300・釜(口1尺2寸)・1487 2000・茶の湯釜・1582	
7000	7000・建盞(3個)・1493		
8000	8000・建盞(3個)・1492		

奈良・京都を中心とした物価  
\*は地方の物価

小野正敏(編)2001『図解・日本の中世遺跡』東京大学出版会 p173を参考に作成

# 中世博多 ものづくりの原点

中世博多は貿易の拠点であるとともに、都市の中で様々なものづくりが行われていました。その背景には、国内外の活発な交流や、先進文化の移入があったものと考えられます。

出土資料にはガラス製品もありますが、その多くは、鎌倉仏教の隆盛と深く関わっていたと推測されます。



吹きガラスの舍利容器



装飾に用いられた様々なガラス製品



冷泉町や祇園町周辺の調査では、ガラスの溶解に用いた坩堝が多数出土します。ほとんどが中国製の水注を転用したもので、12～13世紀の時期に限られます。宋人の関与が想定される資料です。



陶器の壺を転用したガラス坩堝  
左は元になった中国産陶器の壺



内面には溶けたガラスが  
付着している

# 中世博多 ものづくりの原点

鍋や仏具などの金属製品とともに、その製作に用いた坩堝や鋳型も出土します。

歓喜天像（復元品）とその鋳型（複製品）  
（画像は福岡市博物館提供） ▶



▲銅鍋（手前の二つ）と鉄鍋（奥）

鍋の鋳型 ▶



息浜部分の調査では、中世後期（16世紀後半～17世紀前半）の、金の溶解や銀の精錬に用いた坩堝が見つかっています。

周辺では加工痕のある動物骨や刀装具も出土しており、武器や武具の製作が行われていた可能性が考えられます。

◀金の加工に用いられた坩堝



▲灰吹法による銀の精錬に用いられた坩堝

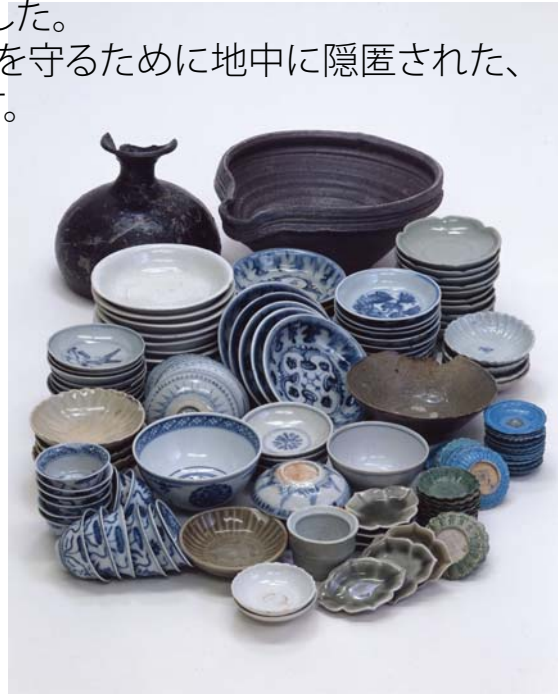
◀坩堝内面に残る金の粒子（デジタル顕微鏡画像）

# 戦乱と博多の終焉

戦国時代、博多はしばしば兵火に焼かれました。博多遺跡群の発掘調査では、戦乱から財産を守るために地中に隠匿された、陶磁器の一括埋納遺構が発見されています。埋めた人々は、二度と博多に帰ることはなかったのでしょうか。



16世紀後半の一括埋納(第124次調査/店屋町)



16世紀末の一括埋納(第40次調査/店屋町)



戦乱に荒廃した博多を復興したのは、九州を平定した豊臣秀吉でしたが、それは同時に中世博多の幕引きでもありました。

16世紀末の一括埋納(第104次調査/上呉服町)  
景德鎮青磁



# 中世博多略年表

日本	西暦	事 項		中国	朝鮮	
平安	1019	刀伊の入寇	警固所合戦	宋		
	1047	大宋国商客宿坊放火	鴻臚館の終焉			鴻臚館から博多へ
	1097	大宰権帥源経信卒	博多にはべりける唐人どもあまたもうできてとぶらいける			
	1105	李充船博多来着	博多警固所による臨検			宋商人「博多綱首」の貿易
	1116	博多津唐房の初見				
	1151	仁平の大追捕	王昇後家より初めて千六百余家			「博多唐房」栄える
	1168	栄西、博多唐房に至る				
鎌倉	1195	聖福寺創建		元	高麗	
	1218	張光安殺害事件	京都で強訴に発展			
	1242	承天寺創建				
	1264	文永の役				
		元寇防塁の築造				
	1271	弘安の役				日元貿易
	1296	鎮西探題設置				博多の中世街区が成立
1323	新安船沈没					
1333	鎮西探題滅亡	博多合戦				
室町	1346	妙楽寺創建		明	朝鮮王朝	
	1370	懐良親王、明に遣使	「日本国王良懐」冊封			
	1401	足利義満、明に入朝	筑紫商客、肥富の献策			日明貿易開始
	1420	朝鮮王朝の宋希璟、来博				
	1471	『海東諸国紀』	「居民万余戸」			
	1480	飯尾宗祇、来博	『筑紫道記』			日明貿易・日朝貿易・日琉貿易盛ん
	1526	神屋壽禎、石見銀山発見				
1533	神屋壽禎、灰吹き法を導入	産銀量、増大 石見銀、世界へ				
安土桃山	1583	竜造寺兵により博多焼亡		中世博多の終焉		
	1586	島津兵により博多焼亡				
	1587	太閤町割り				
江戸	1600	黒田長政、筑前国主				
	1613	博多浜、息浜間の埋立				

# 博多の出土品が 国の重要文化財に

そんな博多遺跡群から出土した品々が、今年、国の重要文化財に指定されました。博多祇園山笠のユネスコ無形文化遺産登録、博多鉾の国記録選撰無形文化財選定に続き、「博多」が世界や全国で評価された事になります。

- ・指定されたのは、博多遺跡群の発掘調査で出土し埋蔵文化財センターで収蔵している資料の中から、希少性、重要性、学術性に着目して厳選した2,138点。
- ・輸入陶磁器を中心として、国産陶器、日用品である土器、漆器、木製品や鏡、仏像などの金属製品により構成されています。

陶器・磁器 1,542 点

中国産青磁 441 点、中国産白磁 386 点、中国産青白磁 53 点、中国産青花 187 点 ほか

土器・土製品 185 点

瓦器・瓦質土器 29 点、土師器・土師質土器 85 点、墨書・墨画土器 9 点 ほか

木器・木製品 61 点

形代 3 点、木札 6 点、漆器 11 点、折敷 2 点 ほか

金属製品 187 点

銭貨 76 点、銅鏡 16 点、メダイ 2 点、刀・刀装具 18 点 ほか

石製品 77 点

鋳型 5 点、権 6 点、模造品 8 点、石鍋 4 点、硯 21 点 ほか

ガラス製品 31 点

容器 5 点、玉 17 点、ガラス素材 6 点 ほか

骨角製品 53 点

刀装具 4 点、筭 17 点、遊戯具 3 点 ほか

烏帽子 2 点

合計 2,138 点



- ・指定に際しては、次のような評価が得られました。

「古代末から中世のわが国における貿易の広がりや、技術や製品の伝播と交流の実態を明らかにするとともに、港湾都市・商業都市に於ける生活実態を具体的に示す資料として貴重であり、きわめて重要な学術的価値を有している」



# 重要文化財を見に行こう！！



文化財は、先人達の歴史や文化を伝える大切な資料として、これからも守り継がれていかなければなりません。

文化財には様々な種類がありますが、地面に埋まっている文化財である埋蔵文化財を保管、活用するための施設が、福岡市埋蔵文化財センターです。

ここでは、重要文化財となった博多遺跡群出土品を含む、福岡市内の発掘調査で出土した資料、約 120 万点が大切に収蔵されています。



博多遺跡群出土の資料は、福岡市埋蔵文化財センターで展示中です。



埋蔵文化財センターの展示室

また、一部は福岡市博物館でも見ることができます。

## 福岡市埋蔵文化財センター

所在地：福岡市博多区井相田 2 丁目 1-94

TEL：(092)571-2921

入館料：無料

開館時間：9:00～17:00（入館は 16:30 まで）

休館日：毎週月曜日と年末年始（12/28～1/4）

## 福岡市博物館

所在地：福岡市早良区百道浜 3 丁目 1-1

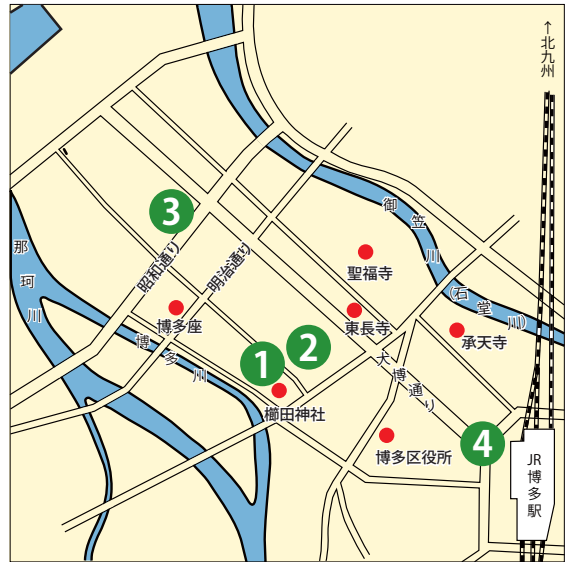
TEL：(092)845-5011

入館料：200 円（常設展・大人料金）

開館時間：9:30～17:30（入館は 17:00 まで）

休館日：毎週月曜日（月曜日が祝・休日の場合はその翌平日）  
8 月 14 日、15 日は開館、8 月 16 日は休館  
年末年始（12/28～1/4）

# 博多を もっと見たい、 知りたい!!



## 1. 博多町家ふるさと館

古きよき時代の「博多」の暮らしを紹介する施設です。  
展示棟（有料）、町家棟、みやげ処（無料）があります。  
町家棟は明治期の博多の町家を移築、復原した文化財です。  
福岡市博多区冷泉町 6-10（櫛田神社門前）  
092-281-7761



## 2. 博多伝統工芸館

「博多織」や「博多人形」など、福岡・博多の伝統工芸を  
紹介する施設です。  
福岡市博多区上川端町 6-1（櫛田神社横）  
092-409-5450  
開館時間：10:00～18:00（入館は 17:30 まで）  
休館日：水曜（祝日の時は翌日）12/29～31



## 3. 博多小学校石塁展示室

発掘調査で検出された石塁遺構を展示しています。  
石塁は元寇防塁の一部である可能性があります。  
福岡市博多区奈良屋町 1-38  
開館日：毎週土・日曜日（12/29～1/3を除く）  
開館時間：10:00～17:00  
お問い合わせ：福岡市文化財保護課 092-711-4666



## 4. 博多駅 f ギャラリー

地下鉄博多駅と祇園駅を結ぶ地下通路の博多駅側入口にあります。  
博多遺跡群をパネルや出土品で紹介しています。



## 5. 博多ガイドの会

博多の歴史やおもてなしの心得などについて学んだ観光専門  
ボランティアガイドが博多のまちを案内します。  
お問い合わせ  
博多ガイドの会事務局（博多区企画振興課）092-419-1012

